

## はじめに

調布市立若葉小学校は、令和4・5年度東京都教育委員会体育健康教育推進校及び調布市教育委員会研究推進校として、「良好な学習集団づくりを目指した体育健康教育の充実」を研究主題として研究を進め、ここにその成果を発表されますことを、心から感謝申し上げます。

貴校は、都の推進している子供たち一人一人の体力向上に向けた取組である「TOKYO ACTIVE PLAN for students」（以下「TAP」）の考えに基づき、運動・生活・食の3つの柱を立て、令和4年度は、全クラスで統一された一定の運動量の確保「わかばスタートアップ」や歩数計などを取り入れた身体活動量の測定を実施することで、児童への運動に関する質問項目では80%以上の肯定的な回答を得ることができ、その成果を示しました。

TAPの目指す「未来の東京」に生きる子供の姿の一つに「子供たちが自ら、一人一人に合った運動やスポーツの関わり方を見付け、生涯を通じて自他の健康について、課題を発見し、明るく豊かで活力ある生活ができる力を育むことが重要である。」があります。本市においても生涯を通じて子供たちが自ら運動や健康について考え、充実した生活を送ることは大切なことであると考えています。そのためには、小中連携教育の充実も必要であります。貴校は児童数の増加や運動場所の確保に対する課題を解決するために、同じ学校区である第四中学校の校庭や体育館を借りて解決を図りました。これは9年間の教育課程及び指導方法について、学校間連携・協体制づくりを充実させる一つの提案として示すことができたと思っております。

本研究の成果が、市内はもとより、多くの学校において子供たちの学びの質の向上及び、豊かな人生を育むことにつながっていくことを願っております。

調布市教育委員会 教育長 大和田 正治

本校は、ここ数年の急激な児童数増加による仮設校舎増築等により運動敷地が縮小し、運動面積が激減したという課題があります。加えて、令和2年の年明け直後から始まったコロナ禍により、他者との距離が心身ともに遠ざかる生活を余儀なくされる日々が続きました。徐々に苛立ちを見せる児童や、他者との関わり合いに不安を抱く児童が増えていく現状を憂えた前任の生田目将校長は、その改善を「体育健康教育」を通して図っていこうと考え、令和4年度から東京都教育委員会体育健康教育推進校及び調布市教育委員会研究推進校として、2年間の研究を進めることとなりました。

運動敷地の縮小を埋める手だてとしては、隣接する調布市立第四中学校のご協力のもと、春の「わかばスポーツ大会」を第四中学校校庭で実施させていただいたり、年間を通じて昼休みやクラブ活動等で第四中学校の校庭や体育館を使用させていただいたりしています。また、短時間での運動量を確保すべく、講師の国士舘大学 細越淳二教授にご指導いただきながら若葉小独自の準備運動「わかばスタートアップ」を開発し、各学級で体育科授業時に活用しています。

「生活」への意識向上については、講師の日本体育大学 野井真吾教授と研究室の方々の協力を得て、「歩数」や「受光量」調査等を含めた「わかば元気アップカード」（生活習慣を振り返るための記録）を全学年で取り組み、児童が主体的に健康的な生活について考える活動に生かしています。栄養士と連携しながら実施している「食」の学習後は、給食の残菜が減ったり、苦手な食材にチャレンジしようとする児童が増えたりする等、授業の3本柱としている「運動」「生活」「食」の各分野において、少しずつではありますが、児童の変容が着実に見られるようになってきました。今後も児童が笑顔で生き生きと生活し、良好な学習集団を構築していけるよう、研究を深めていきたいと思っております。

最後になりましたが、体育健康教育推進校及び研究推進校の機会をいただきました東京都教育委員会と調布市教育委員会に感謝いたしますとともに、2年間に渡り講師として本研究の方向性を示し、ご指導くださった日本体育大学教授 野井 真吾先生、国士舘大学 教授 細越 淳二先生、「食」の授業でご指導いただきました帝京短期大学 名誉教授 穴戸 洲美先生に厚く御礼申し上げます。

調布市立若葉小学校 校長 内藤 みゆき